

## 創価学会員の皆さまにご覧いただきたい日蓮正宗総本山大石寺の桜

総本山大石寺では、今年も桜が満開となりました。参詣者だけではなく、遠方から訪れた多くの方々が桜を楽しむ姿が見られました。

創価学会が破門された当時、

「大石寺は桜の木を切ってしまった」

「桜の木を切ってしまった大石寺はとんでもない宗派だ」

「そんな大石寺の信仰では幸せになれない」

そのように聞かされた方も多いと思います。

30年数年前のことですから、記憶が薄れている方もいらっしゃるかも知れません。しかし、私はその言葉を忘れることはできません。

こちらの写真は現在の総本山大石寺の様子です。桜・さくら・サクラをご覧になってどのように感じられるでしょうか。

「切った後に、創価学会に批判されたので慌てて植え直したのだろう」と思われるかも知れません。しかし、よくご覧ください。常唱堂の桜以外は、どの木も樹齢50年以上を数えるものばかりです。

○なぜ創価学会は『桜のフェイクニュースにすがりついた』のか

30数年前、創価学会はなぜ事実と異なる話を広めたのでしょうか。それは、創価学会に「真実として示せるもの」がなかったからではないでしょうか。「確かな信仰」があれば、すぐわかるような嘘をつく必要はないはずですが。創価学会が、「正直」な信仰の組織ではなかったことを、満開の桜が証明しています。

創価学会員の皆さまお一人おひとり、情に厚く純真で素朴で素敵な方ばかりです。私自身も創価学会員の家庭で育った宗教2世ですから、そのことはよく理解しています。

しかし、個人は温かく誠実であっても、組織になると「組織の理論」が優先され、個人の意見が表明しづらくなる、いえ、表明できなくなるほどの「同調圧力」が際だって強い創価学会であることもよく知っています。

それでもなお、創価学会の信仰を改めて、日蓮正宗の信仰に立ち返り、南条時光や熱原の法華講衆の後輩として、大御本尊様を御守りする道を選んだ方々が大勢いらっしゃいます。

その方々は口をそろえてこう語ります。

「創価学会を離れてよかった。真実が日蓮正宗にあることがよくわかった。桜の件一つを見ても、それがよく分かる」と。

また、「日蓮正宗では幸せになれないと言われたが、創価学会の言動に嘘があったことは、そのまま創価学会にいたら幸せになれないことを証明している」と。

### ○大聖人様の御教え

『三三蔵祈雨事』に曰わく

日蓮仏法をこゝろみるに、道理と証文とにはすぎず。又道理証文よりも現証にはすぎず。 (御書全集・1486頁 新編御書・874頁)

フェイクニュースで築き上げた組織は早晚崩れることでしょう。今回の衆議院選挙の結果は、その始まりを示しているように思えてなりません。

### ○本来の信仰へ

皆さまの本来の信仰である、日蓮正宗の信仰に立ちかえり、「現世安穩・後生善処」を目指してともに精進をしようではありませんか。

《向陽4月号別冊》

















